

## 第3回懇談会で出された意見とその対応

箇所	委員から出された意見	計画への反映状況や対応方向
基本理念	「始める」より「始まる」の方がよいのではないか。「始まる」は個人が意識することにつながる。【大谷委員】	現状では、食育は自主的に始めることができていない現状を踏まえ、京都府として広く呼びかけたいという意志が感じられるよう、他動詞である「始める」とします。
4 施策の展開 食文化	<p>京都では五感を大事にして、盛りつけにも工夫をする。かつては間伐材を五条坂で陶器の釉薬として使っていたが、今はプラスチックの食器が多くなっていることが山の荒廃につながっているのではないか。給食で木の器を使う取組をしているところもある。清水焼を使ってもよいのではないか。【大谷委員】</p> <p>保育所で陶器の食器を使っている。割れるということがわかるのはよいことだが、値段も高く、相当数の買い足しも必要である。【山口委員】</p> <p>食事ばかりに目を向けるのではなく、その周りの文化の掘り起こしが必要ではないか。【湯川委員】</p> <p>生活文化も含めていくべきではないか。【大谷委員】</p>	○現状と課題の食文化の項目に、盛りつけを工夫して目で味わうことの説明を追加しました。また、施策の展開の地域における食育の推進のところに、食文化に関する記載を追加しました。
	郷土料理とは何か、何が頭に浮かぶ人はどのくらいいるだろうか。【山口委員】	○関連する施策のところに、京都府内各地の郷土料理や行事食の例を記載しました。また、コラムに、地場産物を活用した学校給食の献立を記載しました。
	京都ではあらめやおからを食べる日があるが、給食の献立を京都の食文化を踏まえたものにすれば、文化を広めることになり、よいのではないか。【湯川委員】	個別の施策を実施する際に参考にします。
	子どもを対象として節句をテーマに学ぶ教室(ひらめき☆ときめきサイエンス)を開催し、その様子が京都府広報課からYouTubeで放送されているが、大人にも新たな発見があり、興味深かった。【大谷委員】	

### 第3回懇談会で出された意見とその対応

箇所	委員から出された意見	計画への反映状況や対応方向
4 施策の展開 地域	<p>地域の食育で、今は核家族が多くて高齢者と接する機会がないので、多世代の交流ができないかと思う。交流によりそれぞれの能力が発揮できることもある。地元の自治会館で、老人会、子ども会、生活研究グループによる交流会を行っている例もある。【湯川委員】</p>	<p>個別の施策を実施する際に参考にします。</p>
その他	<p>国の骨子には、「共食」が書かれている。孤食を避けるためにも、朝ごはんだけではなく、夕食もなるべく家族みんなで食べるようにした方がよい。【戸田委員】</p> <p>そうはいつでも、みんな忙しいと反論あるだろう。【座長】</p> <p>親と一緒に食べたくない、という場合もある。【大谷委員】</p>	<p>○それぞれの家庭の事情はあるとしても、なるべく家族揃って食べる方が望ましいので、修正しました。</p>